



★トマトキバガに注意（トラップへの誘殺確認）★

トマト等を食害する「トマトキバガ」は、府内のフェロモントラップで昨年9月に初めて誘殺を確認しました。

本年3月に設置したフェロモントラップにおいて、4月3日に府北部および南部で各1頭の誘殺を確認しました。

今後、本虫によりトマト等で被害が発生するおそれがありますので、施設では防虫ネットで侵入を防ぐとともに、発生が疑われる場合は最寄りの農業改良普及センターまたは病虫害防除所に連絡してください。

なお、発生を確認した場合、トマトおよびミニトマトでは薬剤防除を行ってください（表）。

※トマトキバガに関する詳細は、当所発表の令和5年10月12日付け「発生予察特殊報第1号」を参照してください。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2023_01.pdf



写真1 フェロモントラップに誘殺された雄成虫（長さ5mm程度）



写真2* 終齢幼虫
（体長8mm程度。背面に黒色の横帯がある）



写真3* トマト葉の被害



写真4* トマト果実の被害

*写真2～4の出典：下記の農林水産省 Web サイトより抜粋して加工

「植物防疫所病虫害情報 No.127 植物防疫所病虫害情報 No.127」

https://www.maff.go.jp/pps/j/guidance/pestinfo/attach/pdf/pestinfo_127_1-3.pdf

表「トマト」、「ミニトマト」でトマトキバガに登録のある農薬（令和6年4月1日現在）

IRAC コード*	農薬名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数
5	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ラディアントSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内（スピノサド2回以内）
6	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
	アグリメック (ミニトマトは登録なし)	500～1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
11A	エスマルクDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	散布	—
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
22A	トルネードエースDF (ミニトマトは登録なし)	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
28	ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、定植時までの 処理及び定植直後の株元灌 注は合計1回以内、定植後の 散布は3回以内)
	ベリマークSC	400株あたり25mL 液量:400株あたり 10～20L(1株あたり 25～50mL)	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内(但し、定植時までの 処理及び定植直後の株元灌 注は合計1回以内、定植後の 散布は3回以内)
	プリロツソ粒剤	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	4回以内(但し、定植時までの 処理及び定植直後の株元灌 注は合計1回以内、定植後の 散布は3回以内)
	プリロツソ粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半 ～定植時	1回	株元散布	4回以内(但し、定植時までの 処理及び定植直後の株元灌 注は合計1回以内、定植後の 散布は3回以内)
	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
	ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内(但し、灌注は1回以 内、散布は3回以内)
30	グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
UN	プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内

* 殺虫剤コード。有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号で、本コードが異なる薬剤を使用すると、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

注) 農薬の使用に当たっては、ラベルやインターネット等で最新の使用方法や注意事項を確認してください。

また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。